

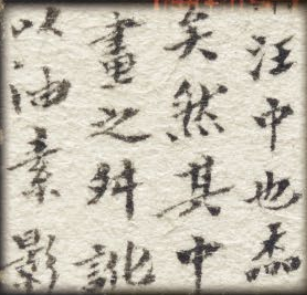
山本寛山筆 永楽大典箱



「長樂未央」瓦当



卜骨



翁方綱筆 万松山房縮本蘭亭序跋



大養木堂筆 行書十三言对句

文字の

黒川古文化研究所 第135回展観



小克鼎

書文化のマテリアル

博物誌



赤坂忠時作 「世の中に」和歌透鐫



「鉅群太守章」封泥



脇指 無銘
(名物 籠手切郷)



大洲藩 銀札

2026
4/18(土) — 5/31(日)

【開館時間】午前 10 時～午後 4 時(受付は午後 3 時 30 分まで)
【休館日】月曜日 ただし 5 月 4 日(月)は開館 5 月 7 日(木)は休館
【入館料】一般 600 円 大学生以下無料
【後援】西宮市教育委員会

背景:(上)集王聖教序 宋拓
(下)伏見天皇宸翰願文

土日祝は無料シャトルバス運行



公益財団法人
黒川古文化研究所
Kurokawa Institute of Ancient Cultures



〒662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町 14-50

開催趣旨

黒川古文化研究所では、毎年春季に代表的な収蔵品を公開しています。今回は「書」あるいは「文字」をテーマに、多彩な古文化財を横断的に展示します。

書文化や文字文化を支えてきたのは、紙や絹に書かれた作品だけにとどまりません。骨や金属、瓦など、さまざまな素材の上にも刻まれ、記され、受け継がれてきました。

日本や中国の文字文化を、読む対象としてだけでなく、かたちある“もの”として見つめ直してみましよう。

みどころ

1 多様な素材からみる書と文字の歴史

今回の展示ではいわゆる「書道作品」の他に、多種多様な素材に記された文字から書道史を辿ります。牛の肩甲骨に刻まれた甲骨文字をはじめ、刀剣や貨幣まで、それぞれの媒体に合わせた文字文化を見ることができます。

2 多角的にみる書道作品

書の展示では通常、基本的な形式として掛軸が展示されますが、今回は掛軸のもつ壁面装飾という目的の意味を意識し、書体の選択や大きさ、小ささの問題を提示します。また展示品全体で、日本と中国の文物をちょうど半々に取り込んでいます。

3 特殊な形状に文字を収める巧みなデザイン

文字が記される場は、「長方形の紙」ばかりではありません。瓦や鐔など、円形のキャンバスにも巧みに文字がデザインされ、配置されています。また、極端に巨大な掛け軸と1ミリ程度の極小の書という、大小の極致を並べたコーナーも見どころです。

開催概要

展覧会名	第135回展観「文字の博物誌 -書文化のマテリアル-」
会期	2026年4月18日(土)～5月31日(日)(44日間)
会場	公益財団法人 黒川古文化研究所 (〒662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町14-50)
主催	公益財団法人 黒川古文化研究所
後援	西宮市教育委員会
入館料	一般 600円 大学生以下 無料
休館日	月曜日 ただし5月4日(月)は開館 5月7日(木)は休館
公式サイト	https://www.kurokawa-institute.or.jp/

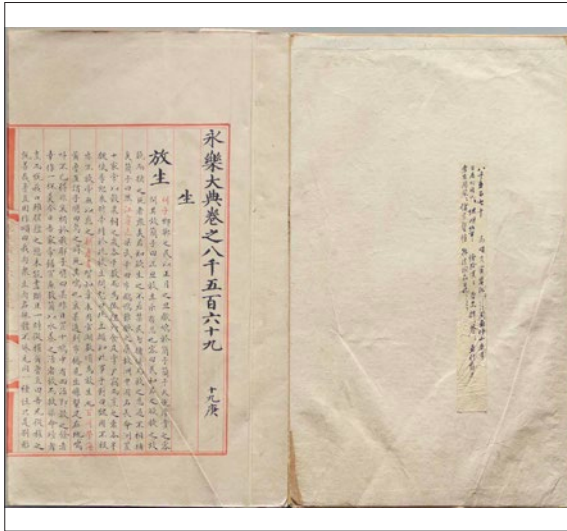
展示の構成と主な展示品

・展示品数 約 70 件 (すべて黒川古文化研究所の所蔵品を展示いたします)

第1章 プロローグ

展示の導入に『永楽大典』抄本とその箱をご紹介します。これらは文字による世界把握、中華皇帝の統一的政策、さらには海を越えて伝わり珍重されたことなど、文字文化の多様な側面を象徴しています。

主な展示品



永楽大典明内府抄本



山本竟山筆 永楽大典箱

第2章 書体の始源

文字の姿は、用途や利便性、人々の美意識により変化を遂げてきました。ここでは甲骨文字から現在のよ
うな楷書が成立するまでの漢字書体の変遷をたどります。

主な展示品



「丁酉」卜骨



小克鼎

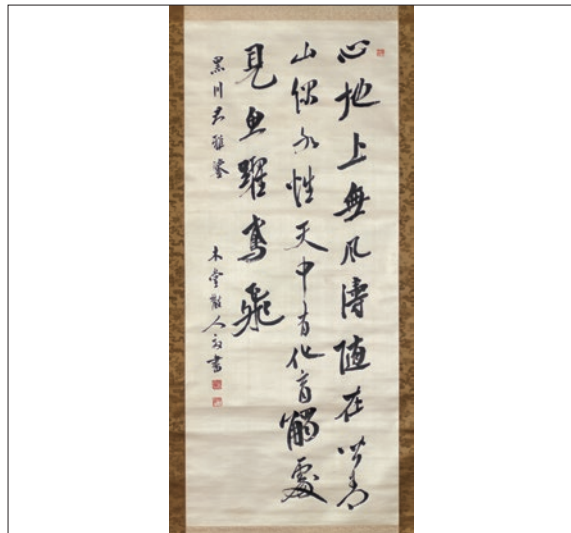
第3章 芸術としての書

唐の二代皇帝・太宗は、300年前の東晋貴族・王羲之の書を信奉し、全土からその書を集めました。以降、東アジアにおいて書は貴族や文人の基礎教養として定着します。

主な展示品



集王聖教序 宋拓



犬養毅筆 行書菜根譚

第4章 実用の書 一手紙と貨幣

書が芸術として確立した後も、文字の主な用途は言語の伝達であり続けます。ここではそうした実用的場面における文字文化を、手紙と貨幣という二つの素材から紹介します。

主な展示品



貫名菘翁筆 磯田帯刀宛尺牘二通



大洲藩 銀札（五匁札）

第5章 神秘なる文字・梵字

梵字は古代インドのサンスクリット語を表す文字の総称で、密教では仏などを一字で象徴的に表す種子が重視され、その加護を願って刀剣などの武具にもデザインされました。

主な展示品



脇指 無銘（名物 籠手切郷）

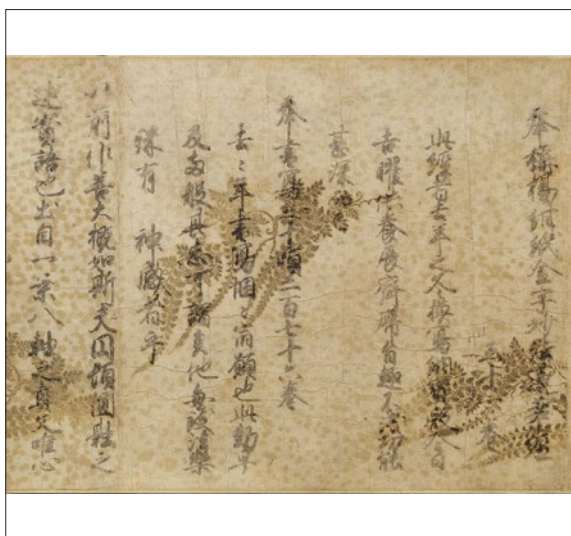


種子に「如何是本来面目」鐔 銘 信家

第6章 日本古代・中世の文字文化

漢字は5世紀頃に日本に伝わり、さらに6世紀の仏教伝来に伴って広く浸透しました。ここでは写経と仏教遺物、料紙装飾などから日本における文字文化の展開を紹介します。

主な展示品



重要文化財
伏見天皇宸翰願文



東大寺大仏殿軒瓦

第7章 かたちと文字（瓦・鏡・印・鐔・画）

円形の瓦・鏡・鐔、正方形の印や扇型の扇面などには文字を収める独特の工夫がなされます。絵画の余白の書も、書き入れ方に個性が現れます。これらから文字文化を多角的に眺めてみましょう。

主な展示品



「長樂未央」瓦当



朱昂之筆 行書名山記扇面

関連イベント

いずれも午後 1:30 ~ 3:00/ 当研究所講演室（入館者は聴講無料）

■特別講座 JSPS 科研費「漢六朝青銅器の総合的研究」成果報告会

4/25（土）大塚紀宜氏（福岡市埋蔵文化財センター 所長）

「漢委奴国王」金印と庚寅銘大刀～先端科学が「読む」古代の文字～

■鑑賞講座

4/18（土）川見典久（当研究所 研究員）

「鐔・刀装具の〈文字〉デザイン」

5/2（土）飛田優樹（当研究所 研究員）

「書作品における“大きさ”と“小ささ”」

5/9（土）伊藤啓介（当研究所 研究員）

「藩札に使われた『変な文字』」

5/16（土）馬淵一輝（当研究所 研究員）

「魏晋鏡の銘文をみる」



■ワークショップ

展示品を手本とした書道作品に挑戦！

5/23（土）担当：飛田優樹

研究員が展示品の見どころをピックアップし、実技講座を行います。

古代の人々の文字を、実物のすぐそばで習ってみましょう。

※途中参加可。10席しかございませんので混雑時は交代をお願いする場合がございます。

黒川古文化研究所の概要

公益財団法人黒川古文化研究所（1950年設立）は大阪で証券業を営んだ黒川家が三代にわたって収集した書画、青銅器、鏡鑑、刀剣、貨幣など国宝2件、重要文化財16件を含む中国・日本の美術・考古・歴史資料約8500件（2万点）を所蔵する研究機関です。紀要や図録などの刊行物、春と秋に開催する展覧によって研究成果を広く公開し、東洋古文化に関する正しい知識の普及という社会的使命を果たすべくつとめています。



外観



展示室

アクセス

- 阪急バス：阪急夙川駅・JR さくら夙川駅からさくらやまなみバス北部方面ゆきに乗し「柏堂（かやんどう）町」下車、西へ徒歩15～20分ほど。坂あり。急勾配。途中案内板あり。
- タクシー：阪急夙川駅より約10分、JR 芦屋駅北口より約15分。
- 無料駐車スペース有り。7台まで可。

土日祝は無料シャトルバス運行！

展覧中の土日祝日は阪急苦楽園口駅前（ローソン苦楽園口駅前店）より無料シャトルバスを往復運行しております。予約なしでご利用いただけます。ただしイベント開催日には満席の可能性がございますのでご了承ください。



■ 無料シャトルバス時刻表（土日祝のみ運行）

時間	10	11	12	13	14	15	16
ローソン 苦楽園口駅前店発	30	00 30	00 30	00 30	00 30	/	/
黒川古文化研究所発	45	15 45	15 45	15 45	15 45	15 40	05

【問い合わせ先】

公益財団法人 黒川古文化研究所 担当：飛田

〒662-0081 兵庫県西宮市苦楽園三番町14-50

TEL：0798-71-1205 FAX：0798-73-4099 HP：<https://www.kurokawa-institute.or.jp/>

メールはホームページの「お問い合わせ」からお願いします。

<https://www.kurokawa-institute.or.jp/pages/5/>

黒川古文化研究所 第135回展観「文字の博物誌 書文化のマテリアル」

広報用使用画像一覧

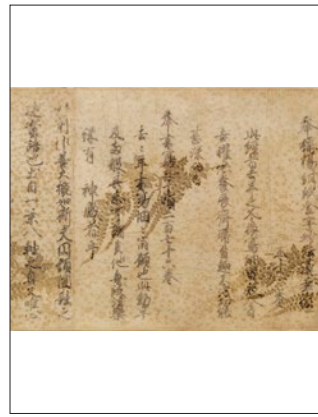
- ・ 広報用の画像はこちらをご使用ください。(黒川古文化研究所収蔵品に限定しております。)
- ・ 画像はHPの「プレスリリース」のページの広報用使用画像よりダウンロードしてご使用ください。
- ・ 本画像は「倭国の遺宝 古墳時代の舶来文化」(会期：2026年4月18日～5月31日、会場：黒川古文化研究所)の広報目的に限りご利用いただけます。
- ・ 画像を掲載する際は、必ず展覧会名「文字の博物誌 書文化のマテリアル」および所蔵先「黒川古文化研究所」を明記してください。
- ・ 画像のトリミング、色調補正は最小限度にとどめてください。
- ・ 上記以外の目的での使用、再配布、商業利用はご遠慮ください。
- ・ 画像使用される場合はHPの「お問い合わせ」ページよりご一報ください。



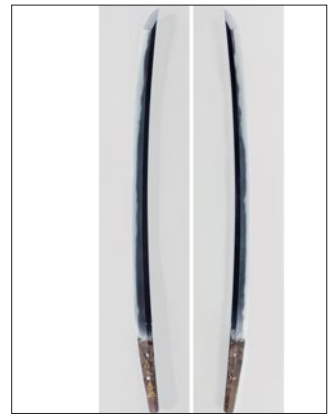
「丁西」卜骨
殷後期



集王聖教序 宋拓
唐 咸亨三年(672)刻



伏見天皇宸翰願文
鎌倉 正和五年(1316)



脇指 無銘(名物 籠手切郷)
鎌倉(14世紀)



ポスター



チラシ表



チラシ裏